

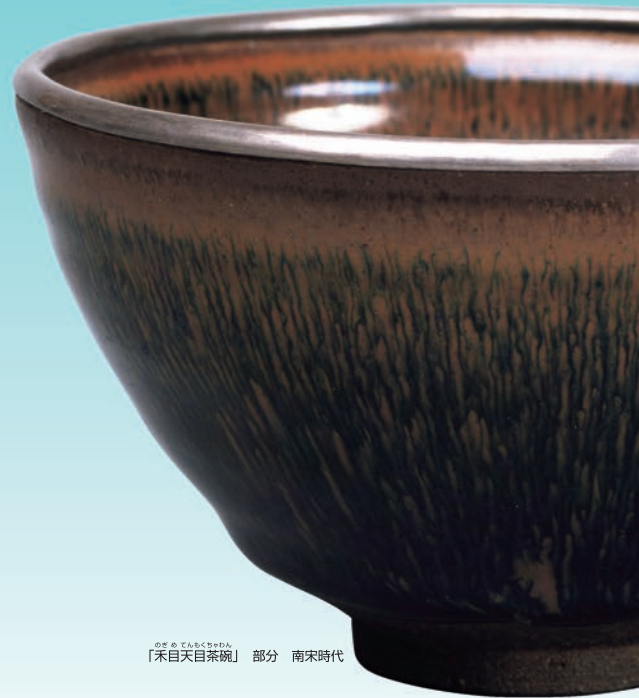


白鶴美術館の中国磁器

釉色への憧憬 — 宋時代を中心に —

本館

せいじ せうからふほなせいしつ
「青磁鳳凰花生」 部分 南宋時代



モゴカカサス
「禾自天目茶碗」 部分 南宋時代

コーカサスの絨毯

新館



Mogan, Caucasus (モーガン, コーカサス)
20世紀初期

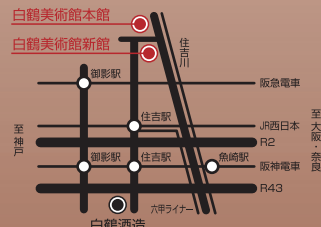
2019年 3月5日(火)～6月9日(日)

休館日 月曜日 但し4月29日(祝・月)、5月6日(振替・月)は開館、
5月7日(火)を休館

入館料 大人：800円 65歳以上・大学・高校生：500円 中・小学生：250円
(大人・大学・高・中・小学生団体20名以上は2割引)

開館時間 午前10時～午後4時30分(但し入館は午後4時まで)

催し	開館85周年記念特別講演会	5月3日(祝・金)	特別イベント	5月19日(日)
	新館レクチャー	5月26日(日)	美術に親しむ会	5月6日(振替・月)
	アートトーク(スライド解説)	3月10・24日、4月7・21日、6月2・9日の各日曜日		
	ワークショップ	4月28日、5月5・12日の各日曜日		



- 阪神御影駅、JR住吉駅から市バス38系統渦森台行「白鶴美術館前」下車
- 阪急御影駅から北東約1km(徒歩15分)
- 阪神高速道路3号神戸線、大阪方面：魚崎出口から1.5km 姫路・明石方面：摩耶出口から6km
- 無料駐車場あり(大型バスも可)

白鶴美術館 春季展



青磁鳳凰耳花生 南宋時代



重要文化財 白地黒掻落龍文梅瓶 北宋時代

クバ(アフシャン), コーカサス
1900年頃

白鶴美術館の中国陶磁器

釉色への憧憬 — 宋時代を中心に —

本館

当館の中国陶磁器コレクションの多くは、創立者嘉納治兵衛正久(1862~1951)により大戦末期に寄贈されましたが、既に茶会や昭和9(1934)年、開館二回目の秋季展から公開されてきたものです。

今回は宋時代(960~1279)を中心に、それ以前の陶磁器を展示します。「宋磁」といえば、「砧青磁」や「天目」と呼びならわされる黒釉茶碗など、日本人を魅了してきた美しい釉色の器が知られています。20世紀に入り、さまざまな美術・工芸に対して学術研究が進むようになると、日本の伝統文化に浸透し、家宝や茶道具の名物として愛されてきたこれらの器もその対象となりますが、その美しさは改めて高い評価を受ける中国美術となったのです。

当館では昭和24(1949)年、開館15周年の特別展「天目・青磁展」が開催されています。戦後間もない当時、学術的視点からも注目すべき中国陶磁器展となったことでしょう。

この春季展が当館85周年記念となりました。作品陳列とともに当館における中国陶磁と展覧会について振り返ってみたいと思います。

のぎの てんめくちやわん 南宋時代
「天目天目茶碗」 南宋時代とうざんさいほうしやうへい 唐代
「唐三彩鳳首瓶」 唐代カラバフ チョンルスク, コーカサス
20世紀初期シルヴァン, コーカサス
20世紀初期

コーカサスの絨毯

新館

言語のるつぼと称されるコーカサス。黒海とカスピ海に挟まれ、コーカサス山脈が中央に聳えるこの地は、世界で最も民族と文化が多様性に富むとされます。コーカサスで織られた絨毯は、概ね色鮮やかで、かつ抽象化された文様によって、大胆な印象を伴っています。しかし、細部を観察しますと、生産地ごとの特徴をみることができ、絨毯においてもその裾野の広さを認めることができます。白鶴美術館には、コーカサス各地の絨毯が所蔵されていますが、この展覧会は、それらを一堂に会した地方ごとの違いを紹介する初めての試みです。

開館85周年記念
特別講演会

日 時: 5月3日(祝・金) 午後1時~3時
対 談: 「戦後日本の中国陶磁器を語る
—蒐集・鑑賞・研究・展示—」
講 師: 大阪市立東洋陶磁美術館 名誉館長 伊藤 郁太郎 氏
兵庫陶芸美術館 副館長 弓場 紀知 氏

特別イベント

日 時: 5月19日(日) 午後1時~2時
テーマ: 「茶の湯の愉しみ方 —鶴堂の茶を想う—」
講 師: 茶人 山口 雅弘 氏 (表千家講師)
募集人数: 10名
参加費: 1500円(お茶・お菓子・入館料を含む)
申込み方法: 往復はがきにご住所・氏名・年齢・電話番号をお書きのうえ、4月10日(消印有効)までにお申し込み下さい。
多数の場合は抽選とさせていただきます。

新館レクチャー

日 時: 5月26日(日) 午後2時~3時30分
テーマ: 「トルコ共和国で出会ったカフカス地方からの人々」
講 師: 大阪国際大学 国際教養学部 教授 佐島 隆 氏

美術に親しむ会

日 時: 5月6日(振替・月) 午後1時~3時
テーマ: 「うちの中国陶磁、この一点!」
講 師: 当館学芸員

アート・トーク

日 時: 3月10・24日、4月7・21日、6月2・9日の各日曜日
午後2時~3時

当館学芸員による
スライド解説

テーマ: 「うちの中国陶磁、who's who」

ワークショップ

日 時: 4月28日、5月5・12日の各日曜日 午後2時~3時30分
テーマ: 「クルッと反転! 紙が要のミニ屏風」
指導員: 甲南大学学生